

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第162号(2020. 9. 1)  
事務局 川西地区自主防災会

「みんながつながり、みんなで支え合い、  
誰もが安全に安心して暮らせるまち」を目指して

社会福祉法人 丸亀市社会福祉協議会

## ●社会福祉協議会（通称：社協）ってなに？

皆さんが暮らしている地域には、ちょっとした助けを必要としている方や、困りごとを抱えている方など、さまざまな福祉課題・生活課題を抱えている方がいます。

社協は、そのような方々の問題を解決し、地域全体をより良くするため、住民の皆さんや社会福祉法人、NPO、行政など、たくさんの人たちと協力して地域福祉の向上を目指す非営利の民間団体です。

また、近年では甚大な災害が発生した地域で市区町村の社協が災害ボランティアセンターを設置・運営していることをお聞きになる機会も多いのではないかと思います。丸亀市社協でも、災害が起きた場合には丸亀市と連携しながら災害ボランティアセンターを設置し、ボランティアの救援活動が円滑に行えるように支援していくこととされています。

## ●災害に強い地域づくりに向けて

### 【東日本大震災への支援から】

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の時には、4月11日から2名体制で計8名の職員を「石巻市災害ボランティアセンター」に派遣し、被災された方々のニーズの聞き取りやボランティアとのマッチングにあたりました。

被災地の1日も早い復興のためには、多くの方々のご協力が大きな力となります。被災地での支援活動の経験を基に、災害時にボランティアの調整等を組織的に行う「災害時ボランティアセンター設置・運営マニュアル」を平成25年度に初めて策定しました。マニュアルは現在も適宜更新を重ねています。

また、被災地において要援護者の安否確認を迅速に行うことが何よりも重要であることを改めて認識したことから、丸亀市社協が事務局を務める民生委員児童委員協議会連



石巻市災害ボランティアセンター

合会との協働で市内各家庭の調査を行い、要援護者台帳を更新するとともに、それに併せて「災害時要援護者福祉マップ」を整備することとしました。なお、丸亀市への個人情報開示については、本人に同意をいただくことで、丸亀市と丸亀市社協と情報の共有化を図り、より一層の見守り支援活動の強化を行っています。

これらの情報については、行政や関係機関との共有の難しさが、どうしても払拭できないのが現状ではないかと思えます。

これからも関係機関と連携を図りながら、災害時に情報が有効に活用されるよう検討を進めていきます。

### 【被災地への災害支援】

ここ数年大きな災害が立て続けに発生しています。丸亀市社協も、被災地の社協や関係団体と、お互いに協力しながら復旧に協力することが社会福祉協議会としての重要な役割であると考えています。

平成 29 年 9 月に発生した台風 18 号の大雨に伴い、香川県内でも多大な被害が発生しました。特に、多度津町においては床上浸水や床下浸水などの水害が発生し、多くの方々が被災されました。丸亀市社協では、香川県社会福祉協議会・市町社会福祉協議会災害支援協定に基づき、災害ボランティアセンターの運営に必要なスコップやブラシなどの資機材を貸し出すとともに、延べ 15 名の職員を派遣して支援活動に協力しました。



多度津災害ボランティアセンター本部



多度津町での支援活動

平成 30 年 7 月には豪雨によって岡山県倉敷市真備町が甚大な被害を受けました。川西地区自主防災会等の方々が 4 日間の支援に行く際に、丸亀市社協の職員延べ 17 名が同行し、被害を受けた世帯の泥出しや家具の搬出などの支援活動を行いました。

また、四国ブロック災害時職員派遣協定に基づき、職員 2 名を愛媛県西予市へ派遣し、12 日間、西予市災害救援ボランティアセンターの運営支援を行いました。

支援に赴いた災害の現場では、大小にかかわらず様々な問題や課題に遭遇しながら、

支援者全員で解決に向けて取り組みました。被災地の方々、そして丸亀市から参加した川西地区自主防災会の方々と共に活動した災害支援の経験は、地元丸亀市はもとより香川県において災害が発生した時に必ず役立つものと考えています。



豪雨災害復旧支援ボランティア活動  
(岡山県倉敷市真備町)



災害ボランティアセンター運営支援  
(愛媛県西予市野村町)

### 【地域と連携した防災教育】

家庭、そして地域を災害から守るためには、地域における防災教育の推進が欠かせません。丸亀市社協では、川西地区自主防災会に協力していただき市内小学生の親子を対象とした防災セミナーを開催しています。セミナーでは、心肺蘇生や初期消火の方法、避難生活の体験などを行っています。

また、昨年の「ふくしフェスティバルまるがめ」では、子ども防災体験プログラム「イザ！カエルキャラバン！」を開催しました。もしもの時、自分に何ができるかを知ることによって防災意識を高め、日頃の助け合いの大切さを学ぶ機会を子どもたちに提供しました。

防災に対する意識と福祉の心を育んだ子どもたちが、「災害から生き抜く力」を身に付けて、将来、地域社会を支える大人に成長して欲しいと願っています。



防災セミナー（消火訓練）



防災セミナー（人形を使った心肺蘇生訓練）

## 【地域と共に行う防災活動】

生活様式の多様化に伴い、地域にはさまざまな問題が生じています。これらの問題を解決するには、地域の皆さんが協力して取り組むことが必要です。

丸亀市では、概ね小学校区を単位として地域の皆さんが「地域コミュニティ」を組織し、問題解決も含めた地域づくりを行っています。

コミュニティ組織には、自治会や老人クラブ、婦人会など、地域に所在する各種の団体・協議会などが参加し、コミュニティセンターを中心に活動していますが、やはり安全に安心して暮らしていくためには、災害への対応を整えておくことが欠かせません。

各地域コミュニティでは防災マップの作成、防災訓練や研修会の開催など、それぞれの地域の特性に応じて、防災力の向上に努めています。

丸亀市社協では、地域の防災力を高めるためには、各地域のコミュニティの防災活動を支援することが大切であると考えています。



コミュニティ合同防災訓練（炊出し訓練）

## 【災害に備える地域のきずなづくり】

現在、丸亀市社協では生活支援体制整備事業に取り組んでいます。この事業は、高齢者が地域で生活する上でのちょっとした困りごとを支えることを目的に、住民主体の話し合いの場を作り、地域コミュニティの方々と共に高齢者の課題把握や参加者が持つ情報の交換など継続的な話し合いを重ね、それぞれの地区で必要な仕組みづくりを検討していこうという取り組みです。

最終的には、高齢者や障がいを持つ方々、子育てに悩んでいる方など、地域の皆さんがお互いに協力しながら暮らすことのできる地域共生社会を目指しています。

また、地域の新たな生活課題や福祉課題の解決に向けて取り組むため、令和3年度から令和7年度までの5年間を期間とする「丸亀市第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画」を丸亀市と地域の方々、そして丸亀市社協が協働して策定しているところです。

「みんながつながり、みんなを支え合い、誰もが安全に安心して暮らせるまち丸亀」の実現を目指しています。



まるがめ Cafe（ワークショップ 2月）

## ●おわりに

災害に強い地域というのは、何らかの繋がりが地域の中に張り巡らされているような社会ではないかと思います。母子家庭、高齢者世帯、一人暮らし高齢者など災害弱者を見守るためには、民生委員・児童委員の方々や隣近所の方々のご協力が何よりも重要です。

丸亀市でも他の自治体と同様に、自治会加入率の減少傾向が顕著に見られます。しかし、多様な価値観の時代でも、川西地区では地元の方々の様々な努力が加入率を上昇へと導いています。多様化する時代であるからこそ、多様な形での繋がりが必要なのかもしれません。無数に張り巡らされる血管を通じて、多くの人の思いやりや気配りが血流に乗って体の隅々まで届いていくことが、地域の体力を育み、災害に強い地域をつくるのではないかと考えています。

これからも災害に強いまちづくりに向けて、地域の方々と一緒に取り組んでいきます。



丸亀市社会福祉協議会キャラクター **オルデ**

今月の事務局だよりは、かがわ自主ぼうの近況をお知らせします。

## 香川県総合防災訓練（8月30日実施）間近

本年度の香川県総合防災訓練を間近にひかえ、諸準備にあわただしい日々です。

＜準備作業＞

- (1) 当日の参加者のビブスと対応ゼッケンの挿入（50人分）
- (2) 避難訓練用のぼり（3種類）の準備
- (3) 避難所受付訓練の様式類の整備
- (4) 避難所設営訓練の設営図面の作成と印刷
- (5) 香川県危機管理課より依頼を受けている物品類の確保
- (6) 参加者名簿の作成とチェック
- (7) 熱中症対策として参加者への飲料水の確保
- (8) 展示用物品の確保
- (9) 将来の避難所モデルルームの仮作成（検証）
- (10) 物品搬送車輛と参加者送迎用マイクロバス等の手配



＜将来の避難所モデルルームの作成＞

## 川西地区の自治会加入促進ニュース

将来の川西地区の要めとなるコミュニティ自治会の加入数が7月18日（土）に600世帯を超えました。これにより、川西地区全体の自治会加入率が62.2%となり、当初は41%からの活動であったため、関係者の喜びはひとしおです。600戸達成記念となったご家族の皆様へ梶丸亀市長より記念品を贈呈させていただきました。

このように地域基盤が大きくなることによって、本年度の日本赤十字活動募金も昨年度比12%増、1,382,000円という素晴らしい成果を収めることができました。

全国の自治会加入状況70～75%、キチンとした都市では80%超です。我が川西も75～80%位まで引き上げることができれば、この活動の終着駅でないかと思っています。



＜梶丸亀市長より記念品の贈呈＞  
岩崎正朔

## 編集後記

9月の防災減災の輪は、社会福祉法人丸亀市社会福祉協議会様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。